

脂肪付加広背筋皮弁を用いた乳房再建後における周術期合併症、術後乳房組織量、術後整容性、および術後疼痛に及ぼす影響因子の検討対象

2017年9月以降当院にて脂肪付加広背筋皮弁を用いた乳房再建を受けられた方

① 研究機関名

大阪大学医学部附属病院 形成外科（責任者：富田興一）

② 目的と意義

脂肪付加広背筋皮弁は広背筋皮弁の弱点であるボリューム不足を補う手法ですが、本邦における有効性の検証は不十分です。本研究では、日本人に対して脂肪付加広背筋皮弁による乳房再建を施行した場合における合併症、疼痛の程度、乳房ボリュームの術後変化、および再建乳房の整容性に関して検討を行い、今後より良い術式を開発していきたいと考えています。

③ 方法

脂肪付加広背筋皮弁を用いて乳房再建を行った患者さんの診療録から必要な情報を収集し解析を行います。新たに追加で検査を行うことはありません。診療録は全て個人が特定できないように匿名化して使用します。自分の診療録を研究に使わないでほしいという希望がありましたら担当医までご相談ください。ご不明な点がございましたら、いつでもご相談ください。

④ 研究期間

現在予定している研究期間は、研究機関の長の実施許可日～2024年03月31日です。

⑤ プライバシー

本研究では、名前や住所などの個人情報を使用しません。

⑥ 問い合わせ先

研究責任者：形成外科 准教授 富田興一

連絡先：大阪大学医学部附属病院

06-6879-5530